

集会案内

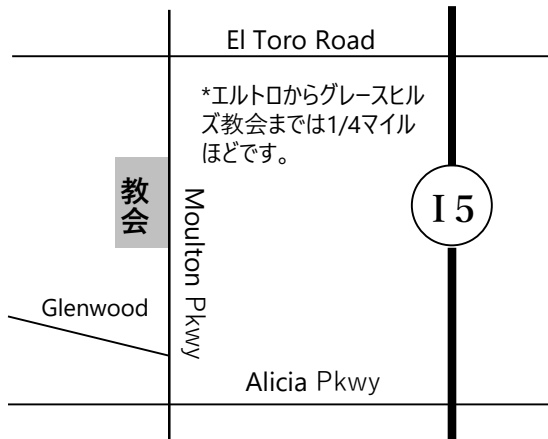
毎日曜日： 祈 禱 会 1：15 pm - 1：45 pm
 礼 拝 2：00 pm - 3：20 pm
 茶 菓 3：30 pm - 3：50 pm
 聖書研究 4：00 pm - 4：50 pm

毎月1回：家庭集会 ラグナ・ウッズ、又はアーバイン
 10：30 am ~ 昼食

教会住所： c/o Grace Hills Church
 24521 Moulton Pkwy
 Aliso Viejo, CA 92637

- ◎ 私達の礼拝は第1バプテスト教会グレース・ヒルズ教会堂内のチャペルで行なっています。
- ◎ 子供たちのためのサンデー・スクールもあります。また、遊具等の設備も豊かに整っております。
- ◎ 12年前に始まった日本語教会です。どなた様もお気軽にお出かけ下さい。

教会の地図



 Irvine Nihongo Kyokai

連絡先：

杉村 宰 牧師 電話：(714) 527-1456
 Eメール：sugimura1950@gmail.com

田畑 彰 牧師 電話：(949) 701-6502
 Eメール：mt.moriya77@gmail.com

Rev. Tsukasa Sugimura

◎石叫 「デナリ大滑降」②

佐々木はターンするたびごとに息を止める。そうしないとうまくターンできないからだ。酸素が薄い高度で息を止めるのは過酷である。佐々木は途中の岩場で雪崩から安全な場所にスキーを止めると、「苦しい！」と言って雪の中に倒れこんだ。彼が480メートル付近にきた時だ。目の前に青氷が見えた。岩の表面が氷で覆われてしまっている箇所だ。佐々木はそこを避けたのだが、後続の新井場が入ってしまった。その途端、彼はバランスを失い滑落してしまった。幸い二十メートルほど止まったのだが、左足の靱帯を損傷してしまった。そこでデナリ大滑降は中断となってしまう、佐々木の長年の夢はついでた。

佐々木は新井場を4300m付近の第二キャンプに収容した。翌日、新井場は「俺は足がダメになっても自力で下山する。だからお前は滑降を続けろ」と佐々木に頼み込んだ。その日はこれまでにない晴天だ。そこで佐々木は続行を決断する。前日に滑降を中断した所まで登り返し、そこから滑ることにした。今度は狩野だけだ。しばらく滑降すると、上からはどこを滑るに良いか分からない場所があり、迷ったこともあった。最後の難関は幅が2メートルあるかないかの400mの最大傾斜度が55度もある所だ。二人は最後の力を振り絞ってそこに滑り込んだ。そこを抜けて氷河の上に立った時、佐々木は叫んだ「生きて帰ったぞ！」（『BS1スペシャル』二〇一八年二月二十六&二十七日放映）。

滑り切った時の佐々木の「生きて帰ったぞ！」の一言が心に響く。冒険に死はつきものだが、死は覚悟しても、死ぬつもりで冒険する人はいないであろう。だが彼の心には、植村の言葉が絶えず心にあったから、思わずそう叫んだのである。実際、デナリは死をも覚悟するほどの危険な試みであったのだ。

罪の中をがむしゃらに滑降をしている人には、いつ崖から落ちるか分からない。だからこそ預言者エゼキエルは、「わたしは何人の死をも喜ばない…それゆえ、あなたがたは翻って生きよ」（一八・32）と叫んだのである。冒険とは生きて帰ることだとすれば、「信仰とは冒険そのもの」だといえる。生きることに、否、永遠に生きることが信仰だからである。それは天と地の大パノラマが展開する中空を主イエスに向かって大滑降する冒険そのものといえまいか。

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。杉村宰牧師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集会を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下り、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令（マタイ28：18-20）に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。